

# 学校において予防すべき感染症及び出席停止の期間について

第一種	病名	主症状	潜伏期間	感染経路	感染期間	出席停止期間	備考
第二種	インフルエンザ 【特定鳥インフルエンザ 及び新型インフルエンザ等 感染症を除く】	高熱(39~40℃)、倦怠感、 頭痛、腰痛、筋肉痛、 のどの痛み、咳、鼻汁	1~4日	飛沫 接触	発熱1日前から3日間を ピークとして7日目頃まで	発症した後5日を経過し、かつ、 解熱した後2日(幼児にあっては3日)を 経過するまで	肺炎や脳炎などの合併症に注意 発熱や意識の様子に気をつける
	百日咳	連続して止まらない咳が特徴	7~10日	飛沫 接触	咳が出現してから 4週目頃まで	特有の咳が消失するまで、または 5日間の適正な抗菌薬による治療が 終了するまで	生後3か月未満の乳児では、呼吸が出来なく なる発作、脳症などの合併症に注意
	麻疹 (はしか)	発熱、咳、くしゃみ、鼻汁、 目の充血、口内の頬粘膜に コプリック斑(白い斑点)、発疹	8~12日	空飛沫 接触	発熱出現1~2日前から 発疹出現4日目頃まで	解熱した後3日を経過するまで	肺炎や脳炎などの合併症に注意 ※麻疹(疑い含む)と診断された場合は、 ただちに、学校(園)に連絡してください。
	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺・顎下腺の腫れ・痛み	16~18日	飛沫 接触	耳下腺等の腫れる1~2日前 から腫れた後5日後まで	耳下腺、顎下腺、または舌下腺の 腫脹が発現した後、5日を経過し、 かつ、全身状態が良好になるまで	無菌性髄膜炎、難聴などの合併症に注意 思春期以降は、精巣炎、卵巣炎の合併あり
	風疹 (三日はしか)	発熱、発疹、リンパ節の腫れ	16~18日	飛沫 接触	発疹出現7日前から 出現後7日目頃まで	発疹が消失するまで	妊娠早期の感染は、出生児に高い頻度で 先天異常を認める ※風疹(疑い含む)と診断された場合は、 ただちに、学校(園)に連絡してください。
	水痘 (みずぼうそう)	発疹→水疱→膿疱→かさぶた 軽い発熱	14~16日	空飛沫 接触	発疹出現1~2日前から すべての発疹が かさぶたになるまで	すべての発疹が、かさぶたに なるまで	肺炎や脳炎などの合併症に注意
	咽頭結膜熱 (プール熱)	高熱(39~40℃)、のどの痛み、 結膜充血、目やに	2~14日	飛沫 接触 プールでの感染	ウイルス排出は、初期数日が 最も多いが、その後数か月 排出が続くこともある	主要症状が消退した後、 2日を経過するまで	※医師の許可があるまで、プールには入らない
	結核	軽い発熱、2週間以上続く咳、 全身倦怠感	2年以内、 特に6か月以内	空飛沫	喀痰の塗抹検査で 陽性の間	病状により医師が感染の おそれがないと認めるまで	家族内感染に注意
	髄膜炎菌性髄膜炎	発熱、頭痛、意識障害、嘔吐	4日以内	飛沫 接触	有効な治療を開始して 24時間経過するまで	病状により医師が感染の おそれがないと認めるまで	
第三種	コレラ	激しい水様性下痢、嘔吐	1~3日	経口			
	細菌性赤痢	発熱、腹痛、下痢、嘔吐	1~3日	経口			
	腸管出血性大腸菌 感染症(O-157等)	腹痛、水様性下痢、血便	10時間~6日	接触 経口	便中に菌が排出されて いる間		溶血性尿毒症症候群などの合併症に注意
	腸チフス	持続する発熱、発疹	7~14日	経口		病状により医師が感染の おそれがないと認めるまで	
	パラチフス	持続する発熱、発疹	7~14日	経口			
	流行性角結膜炎 (はやり目)	結膜充血、まぶたの腫れ、 目の異物感、目やに	2~14日	飛沫 接触 プールでの感染	ウイルス排出は、初期数日が 最も多いが、その後便からは 数週間~数か月続くこともある		角膜に傷が残ると、視力障害を残す可能性がある ※医師の許可があるまで、プールには入らない
	急性出血性結膜炎 (アポロ病)	結膜出血、 結膜充血、まぶたの腫れ、 目の異物感、目やに	1~3日	飛沫 接触 経口	ウイルス排出は、 咳や鼻汁から1~2週間、 便からは数週間~数か月間		※医師の許可があるまで、プールには入らない
第三種 その他の感染症(主な疾患)	感染性胃腸炎 【ノロウイルス感染症 ロタウイルス感染症等】	嘔吐、下痢	ノロウイルス: 12~48時間 ロタウイルス: 1~3日	飛沫 接触 経口	感染力は急性期が最も強いが、 便中に3週間以上排出される こともある		下痢・嘔吐症状が軽快し、全身状態が改善されれば 登校可能
	溶連菌感染症	発熱、のどの痛み、扁桃の腫れ、 ぶつぶつのある赤い舌、発疹 とびひ(伝染性膿痂疹の欄を参照)	2~5日	飛沫 接触	適正な抗菌剤治療開始後 24時間以内に感染力は 失せる		リウマチ熱や腎炎の合併症に注意 適正な抗菌剤治療開始後24時間を経て、全身状態が 良ければ登校可能
	急性細気管支炎 (RSウイルス感染症等)	発熱、鼻汁、咳、 「ゼイゼイ」「ヒューヒュー」という 呼吸音	4~6日	飛沫 接触	3~8日	条件によっては 出席停止の 措置が必要と 考えられる 感染症の例	発熱・咳などの症状が安定し、全身状態が良ければ 登校可能
	伝染性紅斑 (リンゴ病)	かぜ様症状の後に、両頬に 少しもり上がった赤い発疹	4~14日	飛沫	かぜ症状出現から発疹が 出現するまで		発疹のみで全身状態が良ければ登校可能
	マイコプラズマ 感染症	激しい咳、発熱、頭痛	2~3週間	飛沫	症状のある間がピークで あるが、保菌は数週~ 数か月間持続する		症状が改善し、全身状態が良ければ登校可能
	手足口病	軽い発熱(2~3日)、 口の中に水疱ができ痛む、 水疱は手足やお尻にもできる	3~6日	飛沫 接触 経口	ウイルス排出は、 咳や鼻汁から1~2週間、 便からは数週間~数か月間		全身状態が安定している場合は登校可能
	ヘルパンギーナ	発熱(39℃以上)、 のどに水疱ができ痛む	3~6日	飛沫 接触 経口	ウイルス排出は、 咳や鼻汁から1~2週間、 便からは数週間~数か月間		全身状態が安定している場合は登校可能
	伝染性膿痂疹 (とびひ)	水疱や膿疱が破れてただれ、 かさぶたをつくる かゆみ	2~10日	接触	水疱から膿の出る間 【かさぶたにも感染性が 残っている】	通常出席停止 の措置は 必要でないと 考えられる 感染症の例	※医師の許可があるまで、プールには入らない
	伝染性軟属腫 (水いぼ)	中心にくぼみをもつ1~5mmの いぼが、からだ・手足にできる	2~7週	接触			プールの入水は、化膿したり、悪化していない場合は 通常許可してよい *タオル等の共用は避ける
	アタマジラミ	一般に無症状、 吸血部位にかゆみ	産卵からふ化まで :10~14日 成虫まで:2週間	接触	シラミと卵がいなくなるまで		発見した場合、学校薬剤師の指示のもと、 早期駆除を行う *タオル・くし・帽子等の共用は避ける

\* 参考文献: 「学校において予防すべき感染症の解説」 文部科学省(平成25年3月)、「学校、幼稚園、保育所において予防すべき感染症の解説」 日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会(2017年4月改訂版)